



四国民話オペラ
「二人奥方」

&

瀬戸内仕事歌
Work songs of Setouchi

石切り唄
地つき唄
砂糖しめ唄
仁尾綱引き唄
伊吹島舟唄
さぬき麦打ち唄
浜曳き唄



瀬戸内国際芸術祭 2022
香川大学作品「瀬戸内の伝統生活文化・芸術発信プロジェクト」

主催 / 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 香川大学
協力 / 公益財団法人四国民家博物館「四国村」、学校法人のぞみ学園のぞみ幼稚園、高松市立屋島中学校合唱部、四国二期会、讃岐民謡保存会、石切り唄保存会、桑山会宇多津社中、現代舞踊研究会「土曜族」、原和哉専門学院、認定NPO法人 農村歌舞伎祇園座保存会、香川県立ミュージアム、瀬戸内海歴史民俗資料館蔵、坂出市塩業資料館、高松市石の民俗資料館、一般財団法人宇多津振興財団「うたづ海ホテル」他

第1部. 瀬戸内仕事歌

瀬戸内地域では、そこに暮らす人たちの生活から生まれた音楽(仕事歌)があります。今や消えつつあるその音楽(限界芸術)とともに、地域の人たちとその仕事、郷土の風景を現代に甦らせ、現代人として先人たちの郷土への思いを伝える場とします。

芸術監督・演出：若井健司(香川大学) 仕事歌原画：古草敦史(香川大学)

舞踊振付：森ゆかり MC：中越恵美

1. 石切り唄【石切り唄保存会】唄い手・仕事人：山田文太郎 山田浩之 細川良一 中村義行
太田政治郎 太田真介 島本清司 田中真二
太田恵氏 和泉良照
2. 地つき唄【讃岐民謡保存会】唄い手：藤井美幸
お囃子(合いの手)：村川詠子 田中文字子
尺八：山下利雄
仕事人：大西豊子 真鍋千枝子 中井日出子 山川通代
3. 東讃砂糖しめ唄【讃岐民謡保存会】唄い手：山下智恵子
お囃子(合いの手)：藤井美幸 山川通代
尺八：山下利雄
仕事人：小原由嗣(香川大学生)
4. 仁尾綱引き唄【讃岐民謡保存会】唄い手：大西豊子
お囃子(合いの手)：真鍋千枝子 田中文字子 山下智恵子
尺八：山下利雄
仕事人：村川詠子 山川通代 中井日出子 藤井美幸
5. 伊吹島舟唄【讃岐民謡保存会】唄い手・尺八：山下利雄
お囃子(合いの手)：山下智恵子
漕ぎ手：鈴木拓海(香川大学生)
6. 讃岐麦打ち唄【讃岐民謡保存会】唄い手：村川詠子
お囃子(合いの手)：山下智恵子 藤井美幸
尺八：山下利雄
仕事人：田中文字子 山川通代 大西豊子 真鍋千枝子
中井日出子
7. 浜曳き唄【桑山会宇多津社中】尺八：阿部桑佑
唄い手：浅野末子 塩田喜代子 島本幸子
仕事人(浜子)：菊本達也、鈴池幾馬

【現代舞踊研究会】舞踊：辰巳裕子 植田育美 岡部さゆり 木内巴瑛
小嶋里華 出口東詩子 長谷川直子 平田正代
廣田早苗

※2回目は、香川大学生プロジェクト「TERASU」による、あかりが灯った讃岐提灯の展示がございます。

休憩

第2部. 四国民話オペラ「二人奥方」

58年前、芸術家・文化人の先人たちが集結し「四国の民謡・民話による新音楽の創造」を目的として四国初のオペラ作品「二人奥方」が誕生しました。「きつねがなぜ四国にいないのか？」を裏づけるエピソードとなる殿様夫婦を描いた痛快な民話オペラ。この作品に新しい解釈、現代人に分かりやすい演出、編曲を行い、学生や地域の芸術家たちと公演することで、瀬戸内地方の音楽芸術の魅力発見・発信に繋げていきます。

作曲：菅野浩和 台本：瀬川拓男
芸術監督・演出：若井健司(香川大学) 指揮・編曲：岡田知也(香川大学)
コンサートマスター：青山夕夏(香川大学) 音楽アドバイザー：東浦亜希子(香川大学)
舞台監督：田和伸二 舞台スタッフ助手：三木文華 渡辺悠斗(香川大学合唱団)
照明プランナー：西山和宏 衣装：原和哉専門学院他
音響：津村哲治 メイク・かつら他：認定NPO法人農村歌舞伎祇園座保存会他
演出助手：大平伊織(四国二期会)

第一場…奥方の居間(昔々の四国のお城)

第二場…処刑の場(城下はずれの荒野)

【配役・キャスト】

奥方 A：國方里佳 助演(腰元)：岩崎菜奈 中川乃絵
奥方 B：佐治名津子 // (黒子)：安田葵 辻 絢音
殿様：三木伸哉
御殿医：綾 智成 狐たち合唱：(屋島中学校合唱部)
老僧：檜村 誠 浅野季依 岩井知穂 川渕莉子 坂本勇心 佐々木洗輔
前口上：中越恵美 中川遥稀 藤原瑞月 前川佳羽菜 横田 蘭
(屋島太郎狸)

【アンサンブル】

クラリネット：北野あゆな 前田光望
フルート：中川果歩 三好結菜 青山夕夏
アルト・サクソフォーン：山下裕理
打楽器：諏訪稜央 氏原小雪 岩井晴輝
ピアノ：坂本実優 小倉莉子

石切り唄

瀬戸内海一帯は、良質の花崗岩をはじめ様々な石材の産出地です。讃岐には良質の花崗岩を産出する所が多く小豆島、旧木田郡庵治町、牟礼町、直島町、本島・広島がその主産地でした。このうち大坂城に使用された小豆島の巨石は、世に広く知られています。山から切り出された花崗岩はまず石の表面を平らに削る作業を行います。この時にも「石切り唄」が歌われます。同じ石切り唄でも、その作業種、土地に即した独特な唄となっています。

石材の仕事は、山で石を切り出す「石材採掘」、石垣を築く「石積み」、彫刻加工の3種類あり、いずれも鑿・玄翁・鑿などによる手作業によるものでした。山から石を切り出す仕事は、常に自然を相手にした過酷な労働環境の中での長時間にわたる重労働となる仕事です。その苦しさ、寒さや暑さを紛らわせるために、石を叩く音に合わせて一人が唄い、もう一人が合いの手を入れるという唄が自然に口ずさまれるようになりました。それが「石切り唄」という仕事歌の始まりです。

採石をする山にはいくつもの丁場があり、その丁場から石を掘る槌に合わせて歌われる石切り唄は、かつてはノミの高い音とともに、唄が石壁と山にこだまし、山裾の家々にまで聞こえてきたといえます。「打っつけ」といわれる石切り唄は、石にくさびを打ちつける時に唄われます。この唄を聞くと当時の石工がねじりハチマキをして、力強く仕事(重労働)をしている様子が思い起こされ、情緒を感じることができるでしょう。



石丁場／石の民俗資料館蔵



香川豊島の石工／高橋克夫氏提供



道具(石切り)／瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

石切り唄 歌詞

- 1、ヤレエー
かたい約束ヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
石山ヨー寺でヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
 - 2、ヤレエー
石の証文に金の印ヨー(ヤレコラヨーホーホーホー)
 - 3、ヤレエー
石や大工さんはヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
たたきはヨー食べるヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
たたきはずせば喰いはずすヨー(ヤレコラヨーホーホー)
 - 4、ヤレエー
行たら見て来いヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
名古屋のヨー城をヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
金のしゃちほこ あまたらしヨー(ヤレコラヨーホーホー)
 - 5、ヤレエー
だんな大黒ヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
奥様ヨーえびすヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
一人ある子が福の神ヨー(ヤレコラヨーホーホー)
 - 6、ヤレエー
安芸の宮島ヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
回れば四七里ヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
七里七浦七えびすヨー(ヤレコラヨーホーホー)
 - 7、ヤレエー
花は千咲くヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
成る実は一ツヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
九百九十九はあだの花ヨー(ヤレコラヨーホーホー)
 - 8、ヤレエー
俺とお前はヨー(ヨイヨイ ヨイヨイ)
羽織のヨーひもだヨー(ヨイヨイ ヨイヤナ)
かたくむすんで胸にたくヨー(ヤレコラヨーホーホー)
- ※唄い手により歌詞が変わることがあります。

地つき唄 (道化祭の唄)

雨の少ない讃岐地方は溜池が多く、その数は一万六千にも及ぶと言われています。そのため溜池の築造作業、老朽化に伴う堤防修理や改造が、昔から数多く行われてきました。

今でも讃岐(香川県)のどの地域でも、溜池工事で地面を固める作業で歌われた「地つき唄」が残っています。地つき唄は溜池、河川の堤防の普請作業以外にも家屋の新築の時にも歌われました。作業内容によって、歌詞、早さ、節回しが異なります。

堤防を築くには、山から土を運び、鍬で水平にならし、そのあと大勢の人による足踏み作業が始まります。この作業から「地つき唄」が歌われました。足踏み作業が終わると丸棒で土を搗き固める千本搗の作業となり、唄にあわせて賑やかに作業が行われるのです。千本搗が数回行われると、杵づき作業になります。これは大勢の人が杵をもち、唄にあわせて土を搗く作業です。

この他の地搗き作業法に、たこ搗き(胴つき、石場かち)の方法があります。櫓を組んで中に太い丸太・石を吊るし、丸太に数本の縄をつけ棒を束ねた部分を通して縄は櫓を囲んだ多数の人々が手に持ちます。縄を引くと丸太や石が持ち上がり、縄を一斉に離すと丸太が落ちて地面を突き固め、これを繰り返すわけです。今回は、丸く扁平させた大石に数本の縄をつけ4人で音頭に合わせて落下させる作業をお見せします。この作業は長い工程と時間を要し、地つき唄はその作業にあわせて歌う唄で、その作業の種類によって唄と囃子(合いの手)は異なります。

高松市南部香川町では、溜池造りで功績のあった矢延平六を偲び「道化祭り」が今も開かれています。その祭りで歌われる矢延平六を讃える唄は地搗き唄としても歌われています。



満濃杵搗之図／香川県立ミュージアム所蔵



道具(タコツキ胴石)／瀬戸内海歴史民俗資料館蔵



道具(地搗き 杵)／瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

地つき唄 (道化祭の唄) 歌詞

- 1、ヨイサアアヨ (一心コラマカシヨ)
高塚山には (コラシヨ)
矢延平六さんを (ドッコイシヨ)
神と祭りであるわいな
(シヨコホイシヨコリキヤノホイホイ)
- 2、ヨイサアアヨ (一心コラマカシヨ)
ここは坂下 (コラシヨ)
赤坂街道 (ドッコイシヨ)
大名行列堂々と
(シヨコホイシヨコリキヤノホイホイ)
- 3、ヨイサアアヨ (一心コラマカシヨ)
新池よいこ (コラシヨ)
宝の池よ (ドッコイシヨ)
道化祭もエーいさまく
(シヨコホイシヨコリキヤノホイホイ)
- 4、ヨイサアアヨ (一心コラマカシヨ)
鼻は高塚 (コラシヨ)
目は丸山よ (ドッコイシヨ)
文字は川内原エー嫁坂
(シヨコホイシヨコリキヤノホイホイ)
- 5、ヨイサアアヨ (一心コラマカシヨ)
白のおまんまは (コラシヨ)
お米のめしよ (ドッコイシヨ)
平六さんのエーおかげぞな
(シヨコホイシヨコリキヤノホイホイ)

東讃砂糖しめ唄

砂糖は讃岐三白(砂糖・塩・綿もしくは米)の一つに数えられ、広く知られていました。

水に恵まれない讃岐では、稲作のために溜池築造に力を注ぎましたが、新田開発に伴う用水確保は難しく、江戸時代高松藩では、用水節約、産業育成の手段として砂糖きびの試作をはじめることとなりました。その砂糖きび



の栽培には、平賀源内も関わったと言われていいます。七代藩主 松平頼起よりおきの時に至り、砂糖の製造に初めて成功し、讃岐砂糖の名声を全国に広めることとなりました。江戸時代の天保の頃には、大坂への積み出し額は六百十五万斤に達し、全国産額の大半を占め、年ごとに産額を増していましたが、明治二十五年頃から輸入の砂糖に押され衰えていきました。

砂糖きびの別名かんしょは甘蔗とも言い、砂糖は甘蔗の茎が長く成長してから初冬に刈り取り、その茎を圧搾して糖汁を絞り出し、それを精製して砂糖を作り出します。絞り出す圧搾機には三個の花崗岩を「ろくろ」として組み合わせて造った「砂糖車」が用いられました。三個の石が相接した歯輪によって「ろくろ」は回転し、その隙間に甘蔗を入れて押し潰し、糖汁を絞り出す仕組みになっています。その「ろくろ」に引木を取り付け、動かす動力には、牛を使うことが多かったそうです。牛を操る者(牛方)、甘蔗を押し込む者、流れ出る糖汁を受け樽に入れる者三人で、主に夜間に作業を行い、砂糖しめ唄は牛方が、眠気覚ましに唄ったようです。



讃岐国白糖製造図 大日本物産図会 / 香川県立ミュージアム所蔵



砂糖締め風景 (草薙写真・大内町三本松) 昭和30年代 / 瀬戸内海歴史民俗資料館蔵



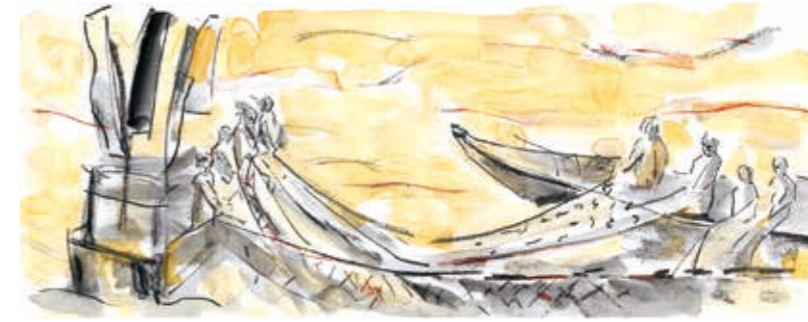
道具(砂糖車・砂糖締め小屋) / 四国村

東讃砂糖しめ唄 歌詞

- 1、イヤー 眠た目をしてヨー
ハアー 朝とに起きて
締め子するにもヨー
ハアー かわいさヨー(アーモーターモーター)
- 2、イヤー 牛もえらからヨー
ハアー 締め子もえらい
四番返しのヨー
ハアー かす締めじゃヨー(アーモーターモーター)
- 3、イヤー 締め子さん達ヨー
ハアー 毎度の夜食
私やいつものヨー
ハアー はみがやしヨー(アーモーターモーター)
- 4、イヤー 牛よ見よまえヨー
ハアー 早よもうて寝んか
済めば餌につくヨー
ハアー 床につくヨー(アーモーターモーター)

仁尾網引き唄 (三豊市仁尾町)

八十八夜が近づき、若葉が日ごとに色濃くなると、瀬戸内海では初夏の豊漁期を迎え、いわゆる「うおじま」の季節、1年中で最も鯛の多く取れる時期となります。



外海で冬をすごした鯛の群れは春の潮が暖かくなるにつれ、波静かな瀬戸内海に移り産卵する習性を持っています。鯛の群れは鳴門海峡から丸亀付近の海上まで移動し、ちょうどこの進路にあたる海域が鯛網の漁場となっていました。

東讃地方では庵治、直島が昔から鯛網の豊かな漁場としてよく知られています。

鯛を捕えるにはもっぱら「しぼり網」によるものでしたが、仁尾網引き唄は、この作業の時や仁尾の港に入る漁船の大漁祝い、また総出で行う網引きの際に唄われたと言われていいます。

この漁法は九隻の和船を一組にして、鯛の群れを遠巻きにし、潮の流れを考えて網を入れて行われます。もちろん網は「しぼり網」です。

産卵期に入った鯛の鱗の紅色は、きわめて美しく、この頃の鯛を特に桜鯛と呼びます。大漁の時、網いっぱい桜鯛がはね、海面はみるみるうちに紅色に染まります。帰途につく船では喜びにわく漁師達が、「大漁節」を威勢よく歌ったようです。讃岐各地(庵治町・仁尾町・観音寺市伊吹町等)の大漁節は、どれも節回しは短く、威勢よく、歌われた唄です。



「鯛網乃図」『讃岐国名勝図会』/ 国立公文書館デジタルアーカイブ



香川・庵治町鯛網 / 高橋克夫氏提供



道具(タイ吾智網) / 瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

仁尾網引き唄 歌詞

- 1、(アーキリバ イエーホイエーホ
ヨイトマカセデ ドッコイ ドッコイ)
わしが サーヨーオエー 出します藪から笹を
(アーヨイト ヨーイト)
つけておくれよ コリヤ短冊を ヨーイトナ
- 2、(アーキリバ イエーホイエーホ
ヨイトマカセデ ドッコイ ドッコイ)
三崎 サーヨーオエー 沖から帰るとすれば
(アーヨイト ヨーイト)
鯛や鱈が コリヤ沖合いと出て招く ヨーイトナ
- 3、(アーキリバ イエーホイエーホ
ヨイトマカセデ ドッコイ ドッコイ)
旦那 サーヨーオエー 大黒奥様恵比須
(アーヨイト ヨーイト)
出来たこの子が コリヤ福の神 ヨーイトナ
- 4、(アーキリバ イエーホイエーホ
ヨイトマカセデ ドッコイ ドッコイ)
明日 サーヨーオエー よいなぎ 沖まで出たが
(アーヨイト ヨーイト)
丘の藻ばたで コリヤ万ためた ヨーイトナ

いぶきじま
伊吹島舟唄

讃岐は、波静かな瀬戸内海に面し島々も多く、至る所に豊かな漁場がありました。漁港も多く、いろんな漁船が出入りしていましたが、その多くは小さな船で、昔はゆうゆうと舟唄を歌いながら櫂を操っていたようです。各地の漁港には、各種の舟唄が残されていますが、「ヨーオエ」あるいは「ヨー」で終わる唄が多く、これは櫂や櫂を操る掛け声そのまま舟唄の囃子(合いの手)になったもので、舟唄の特徴となっています。

観音寺市沖合の伊吹島には、昭和の初め頃まで「ちょんこ船」と呼ばれる木造の和船がありました。「伊吹島舟唄」は、この船で歌われていたことから「ちょんこ節」とも言われています。「ちょんこ船」は、船頭と3人の漕ぎ手からなる4人乗りの3丁櫂の船でした。港のある伊吹島を宵に出て、沖で漁をしている船から船へと回航し、主として漁獲物の海老を買い集めていました。現在の漁船は、エンジンで動くものがほとんどで、船足が早く港との行き来が短時間でできますが、昔は、人力の櫂漕ぎ船が中心で、速度も遅く漁獲物が多ければ多いほど、更に船足は遅くなりました。そのため当時は、漁に専念する船と漁獲物を運ぶ船に区別され、「ちょんこ船」は、漁獲物を運ぶため早い船足で沖と港を行き来していました。



広島・尾道市因島箱崎／高橋克夫氏提供



道具(櫂と櫂をのせた船)／瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

- 伊吹島舟唄 歌詞
- 1、ハーちょんこ乗りにはヨーエ
妻子はいらにゃヨーエ
晩にや出でいて
朝戻るヨーエヨーエヤー
 - 2、ハー沖のかもめにゃヨーエ
潮どき問えばヨーエ
私や立つ鳥
波に問えヨーエヨーエヤー
 - 3、ハー沖の暗いのにヨーエ
白帆が見えるヨーエ
あれは紀の国
みかん船ヨーエヨーエヤー

讃岐麦打ち唄

うどんの名所讃岐では、気候が温暖なため稲作の裏作として主に裸麦が作られていました。昔は、麦を刈り取ると、まず、かなばし等で穂を取り、穂は農家の庭先などで箆の上に上げ、天日でよく乾かし、唐竿(別名:連枷、くるり)を用いて脱穀の作業が行われました。唐竿は長さ2メートルあまりの竹竿の先にぶちがついており、これを振り上げると廻るような仕組みになっています。のちに竿と短い棒を連結していた金具は鉄鎖、短い棒は鉄造りとなっていきました。箆いっぱい広げた麦の穂の上にこの唐竿を打ちおろし、脱穀の作業を行いました。調子を整えるために「麦打ち唄」が歌われました。麦打ち(棒打ち)の作業を行う初夏は暑く、その仕事は炎天下での作業であったため、汗まみれになります。水をいくら飲んでも足りなくなるほど、農作業の中でもとびきりたいへんな重労働だったそうです。重労働をまぎらせるためにもこの「麦打ち唄」が歌われました。麦打ち唄は、江戸時代から昭和の中頃まで麦の収穫期には、広く各地で歌われてきましたが次第に姿を消していきました。作業の模様を俳句にしたものを二句ご紹介します。



- 「長旅や駕なき村の麦ほこり」 与謝蕪村 「蕪村句集」
「麦ほこりかかる童子の眠りかな」 芥川龍之介 「澄江堂句集」

唐竿による脱穀は、稲や麦だけでなく他の作物にも幅広く応用できたので、世界各国に数多く似たようなものがあります。西洋では唐竿状の農具を元にしたフレイルと言う打撃武器が開発され、甲冑を身に纏い、剣では有効な打撃を与えることが難しい重装騎兵に対する対抗手段として大いに普及しました。沖縄のヌンチャクも、唐竿をもとに考案されたと言われています。



麦打ち唄／讃岐民謡保存会



道具(唐竿)／瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

- 讃岐麦打ち唄 歌詞
- 1、(コラ)サノサッサ ドッコイサノサッサ
ハーア 主の便りが(コラ)
ないぞの様よ(ハイ)
思う便りがありゃ住まれる
(ソラ)コが鱈の骨どころ(ホイ)骨どころ
 - 2、(コラ)サノサッサ ドッコイサノサッサ
ハーア 女木と男木に(コラ)
豊島を入れて(ハイ)
あれをみよとに 小豆島
(ソラ)コが鱈の骨どころ(ホイ)骨どころ
 - 3、(コラ)サノサッサ ドッコイサノサッサ
ハーア すいた殿御に(コラ)
たから笠させて(ハイ)
屋島 壇ノ浦うらうらと
(ソラ)コが鱈の骨どころ(ホイ)骨どころ
 - 4、(コラ)サノサッサ ドッコイサノサッサ
ハーア 揃た揃たよ(コラ)
白い菅笠が(ハイ)
こちの殿御(とのご)もあの中に
(ソラ)コが鱈の骨どころ(ホイ)骨どころ
 - 5、(コラ)サノサッサ ドッコイサノサッサ
ハーア 思うて来たかや(コラ)
裏から来たか(ハイ)
私しや裏から思うて来た
(ソラ)コが鱈の骨どころ(ホイ)骨どころ

浜曳き唄（宇多津浜）

昔から讃岐は、海に接し晴れの日も多く、全国屈指の塩の生産地でした。綾歌郡宇多津町、坂出市、丸亀市を中心に、東は高松市牟礼町・屋島、西は三豊郡詫間町・仁尾町の海岸に至るまで塩田が広く分布していました。総面積は一万二千三百六十四反といわれています。



わが国では地質的に岩塩などは産出せず、先人たちは海水から塩を作る製法に工夫を凝らしました。古くは縄文・弥生時代から「直煮製塩」、藻に海水を付着させる製法の「藻塩焼」を経て、海水を浜に揚げて天日で乾燥させる「揚浜式」から、さらに潮の干満を利用して海水を浜に揚げる「入浜式」へと移り、その技術を高めてきました。入浜式の製塩法は、江戸時代に始まり、遠浅海岸の満潮水位以下の場所に堤防を築き、その内側に砂層地盤の塩田を設けたものです。まず海水を塩田に引き入れて、海水を抜いた後、砂の乾燥や塩分付着の効率を高める為、砂の表面を引いて砂をかき混ぜて行きます。この作業を「浜引き」といいます。砂とともに天日でよく乾かし、大量に塩分を含んだ砂を集めて、海水で溶かし、塩分の多い鹹水ができます。更にこれを濾過して釜に入れ、火で煮詰めると真っ白い塩ができるのです。

塩田において「浜引き」は、馬鍬を引く作業をいい、この時、歌われたのが「浜曳き唄」です。浜引き作業に従事する人を「浜師」といい、「浜曳き唄」には浜師の生活の有様を表現した歌詞が非常に多いです。また他の作業唄と同じように塩田作業の動作そのものが唄の節回しを形成しています。特にこの唄は馬鍬を引っ張りながら塩田で作業をする浜師の動作がよく表現されています。



初期讃岐浜塩の図(門脇俊一木版画) / 若井健司蔵



浜曳き / 坂出市塩業資料館蔵



道具(浜道具) / 瀬戸内海歴史民俗資料館蔵

- 浜曳き唄（宇多津浜） 歌詞
- 1、アーわしは讃岐の 宇多津の浜師
ア一色が黒いは親ゆずり
色の黒いは親ゆずり
 - 2、ア一雨よ降るなよ 子持ちが泣くぞ
ア一塩田浜師の わしも泣く
塩田浜師の わしも泣く
 - 3、ア一落ちる玉汗 砂めが吸うた
ア一横でカニめが 餅をつく
横でカニめが 餅をつく
 - 4、ア一来るか来るかと 浜に出てみれば
ア一沖の潮風 音ばかり
沖の潮風 音ばかり
 - 5、ア一うちのといき 浜行く時は
ア一すずし風吹け 空雲れ
すずし風吹け 空雲れ
 - 6、ア一浜は照れ照れ 浜師は走れ
ア一日がな一日 照れ走れ
日がな一日 照れ走れ

解説・編集：若井健司

瀬戸内仕事歌 出演団体・仕事歌原画 プロフィール

石切り唄保存会

高松市牟礼町と庵治町の境にある八栗山の西麓一帯では、良質の花崗岩（庵治石）が産出されます。庵治石の切り出しの歴史は、天正16年(1588)高松城築城開始の頃と言われ、石材の仕事は文化11年~12年(1814年~15年)の屋島神社造営に伴い、和泉の国(大阪)から呼び出された石工たちによって栄えたと言われています。石切り唄もその頃から歌い始められたそうです。その唄声も昭和30年代以降、機械化と共に次第に聞かれなくなり、地域の人達で石切り唄保存会が結成され、伝承活動を行なっています。「石切り唄」は、昭和57年高松市指定無形民俗文化財(旧 牟礼町無形文化財)に指定されました。出演者(10名): 山田文太郎、山田浩之、細川良一、中村義行、太田政治郎、太田真介、島本清司、田中真二、太田恵氏、和泉良照



讃岐民謡保存会

創立年月日: 昭和56年2月 構成員数: 50名 沿革・目的: 三谷町は、高松市南部の田園地帯で古くは南海道の宿場であり、多くの学者や先覚者を輩出し、歴史、自然にも恵まれた土地です。また、香川の三大溜池のひとつ三谷三郎池があり、総貯水量二百万トンといわれる豊かな水は讃岐平野を潤しています。昭和55年に讃岐草取唄が香川県代表に選ばれ、日本民謡大賞全国大会で日本武道館に出場したのを契機に讃岐民謡保存会を結成しました。以後、讃岐に伝わる古い民謡の掘り起しと継承に努めています。出演者(9名): 山下利雄、山下智恵子、村川詠子、藤井美幸、大西豊子、真鍋千枝子、田中文字子、山川通代、中井日出子



桑山会宇多津社中（宇多津民謡同好会）

創立時期: 約45年前 構成員数: 10名(桑山会国分寺社、坂出社、普通寺社、観音寺社を含めると会員総数は約60名) 活動頻度・場所: 週一回、宇多津保健センターにて 年間行事: 桑山会民謡発表会、宇多津文化協会芸能祭、老人施設慰問(年1~2回) 沿革: 私共の団体は、民謡桑山会と称し、発足は昭和四十年、平田桑山氏によって始まりました。平成八年より、阿部桑佑が二代目桑山会会主を務めています。先の瀬戸内国際芸術祭では、坂出の「櫃石 うちわ踊り」唄で出演させていただき、大変良い思い出に残っています。出演者(6名): 阿部桑佑(勝)、浅野末子、塩田喜代子、島本幸子、菊本達也、鈴池幾馬



現代舞踊研究会「土曜族」

1965年に香川県内では数少ないモダンダンスの団体として結成し現在に至ります。ダンス愛好家たちが、毎週土曜日に研究会として幅広い年齢層が集まり活動しています。これまでの作品には、「いわざらござら」「奉公さん」「海女の玉取り伝説」等の香川県にまつわるものや、「星の王子さま」「娘道明寺」等のダンスを創作し、「土曜族展」として定期的に公演を開催しています。出演者(9名): 辰巳裕子、植田育美、岡部さゆり、木内巴瑛、小嶋里華、出口東詩子、長谷川直子、平田正代、廣田早苗



古草 敦史(香川大学)

仕事歌原画制作(3P~9Pの仕事歌原画)

愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 絵画専攻(油画)修了、100人の交流展 in kobe すどう美術館賞、第44回関西西国展奨励賞、第46回関西西国展ホルベイン奨励賞、第46回関西西国展関西西国画賞、第85回国展新人賞、第86回国展新人賞、第91回国展損保ジャパン日本興亜美術財団賞など受賞。国展会員。現在第96回国展出展中。2015年4月~香川県造形教育研究協議会会長。香川大学教育学部教授。



四国民話オペラ「二人奥方」 あらすじ

第一場

時は、むかしむかし、そのむかし。四国のあるお城に、気の強い奥方と、気の弱い殿様が住んでおりました。ある朝殿様が、お目覚めになると、大広間に奥方がふたりも座っています!きっと、どちらか狐が化けた偽物に違いありません。見極めようと近づいた殿様は、二人の奥方の諍いさかいに巻き込まれ大騒ぎ。困った殿様は、知恵者で信頼厚い御殿医を呼び出します。

二人の奥方の前にやってきた御殿医に向かって二人とも、もう一方が偽物だと喚わめき散らします。御殿医は、様々な診察や様々な策を講じますが、なかなか狐は尻尾を出しません。しかし、しだいに二人の違いが見うけられるようになります。気が強く、気が利かない奥方と、気が優しく、気が利く奥方。殿様にはどちらが偽物か判ってきますが、なぜかそのことを言い出しません。そこにたくさんのいなりずしが運ばれると、奥方たちは、物凄い食欲で食べ始めます。隙を見せた偽の奥方(狐)は、とうとう尻尾を出してしまいます。

怒った奥方(本物)は、偽の奥方(狐)を「火あぶり、打ち首にせよ」と騒ぎ立て、偽の奥方(狐)を縛り上げ城下はずれの処刑場へと連れていきます。

第二場

なぜか偽の奥方(狐)を案じ、あたふたする殿様。木に縛り付けられた偽の奥方(狐)は、殿様に人と狐の恋の伝説の主人公:信太の白狐(葛の葉・安倍晴明の母)が詠った歌を歌います。その歌に思い余ってとうとう助けようとする殿様、そこに火のついた松明を持った奥方(本物)たちが現れます。止めようとする殿様、火をつけることを躊躇する腰元たち、怒った奥方(本物)は、松明を取り上げ、自ら焚き木に火をつけようとします。

そこに念仏らしき声が聞こえ、老僧と子供たちが現れます。それは、なんと!狐の長老と狐たちでした。火あぶりにされそうな偽の奥方(狐)の命乞いに現れたのです。

皆の必死の命乞いにも全く聞く耳を持たない奥方(本物)、それどころか狐たちを全員捕まえようとします。追い詰められた狐の長老は、大きな声で呪文を唱えます。するとどうでしょう、奥方(本物)のお尻に尻尾が生えだします。そして処刑場は大混乱となります。その間に、狐の長老は詫言証文を殿様に渡し、「二度と狐は、この地(四国)には住まない」と約束し、狐たち全員を引き連れ去っていきます。

狐たちが去ったあと、奥方(本物)の尻尾は無事取れますが、奥方(本物)は気が収まらぬ様子。一方、殿様は狐たちを笑って見送るのでした。

四国民話オペラ「二人奥方」との 出会い・解説

オペラ「二人奥方」の存在を知ったのは、2003年当時、香川県の芸術祭委員長をされていた八木亮三氏から渡された古い資料によるものでした。それは古びた一冊の本とプログラム。『「脚本＝龍の子太郎・うぐいす姫ほか」著:瀬川拓男』と『香川二期会10周年記念コンサート(1965)』のプログラム。その本には、瀬川氏が台本を書いた音楽人形劇、オペラ作品などの概要が紹介され、香川で発表されたオペラ「二人奥方」の概要を説明したページが含まれていました。また、プログラムには、初演となる合唱曲、民話による重唱曲集、そしてオペラ作品「二人奥方」の記載がされていました。

この時まで、香川で創られた最も古いオペラは、1997年「国民文化祭かがわ1997」にて、創作されたオペラ「龍神の玉～海女の珠とり物語～」とと思っていましたが、その古びたプログラムにはオペラ「二人奥方」の公演年が1965年と記載されていたことから、このオペラ作品こそ香川、いや四国で最初に創られた作品であることがわかりました。

オペラ「二人奥方」は、1965年2月21日 高松市市民会館にて香川二期会よって初演されたものでした。香川二期会とは、既に、東京でオペラ事業を始めていた「二期会(現:東京二期会)」にあやかって付けた名称であり、その「二期会」は1952年、東京にて当時の活躍中の声楽家により結成された団体です。それまでの声楽・オペラ活動を一期と考え、これからの次世代が創る声楽・オペラ活動を二期と考え付けられた名称です。この「二期会」の精神を、貧しくとも心としていこうとする香川県下の音楽家・芸術家の有志によって1954年4月に設立されたのが香川二期会でした。現在も香川二期会の合唱団(香川二期会合唱団)が、香川県の主要な合唱団として活躍しています。

その香川二期会が10周年を迎える年の記念公演として「四国の民話・民謡に取材した洋楽様式による現代化」を試み、その中で新作のオペラ公演を計画しました。当時、会長の藤原高夫氏(香川大学助教授)から、作曲家・音楽評論家として有名であった菅野浩和氏に作曲依頼がされました。菅野氏は、当時、新作オペラを次々と発表し、日本オペラ界では期待された人物でした。また台本の瀬川拓男氏は、菅野氏と組んですでに3本のオペラ作品を創作し、「二人奥方」は、4本目の作品となりました。「二人奥方」発表の2年前(1963年)には、菅野・瀬川氏によるモノ・オペラとして話題を呼んだ「安達ヶ原の鬼女」が邦楽四人の会によって発表されています。この作品の原作は能の演目でもある謡曲「黒塚」であり、福島県二本松市安達ヶ原地方にまつわる「安達ヶ原の鬼婆」という有名な伝説でした。

瀬川氏は、人形劇やオペラの脚本以外にも、日本の民話の編集・研究を行い、人形劇・オペラの題材としても活用していました。その中には1961年にNHKよりTV放送された人形劇「龍の子太郎」、1964年TBS「龍の子太郎」などがあります。

当時の日本オペラ活動は、都市部の東京・大阪・京都のみであり、地方でのオペラ制作は、皆無の状態でした。そのような中で、香川の先人たちは、県内の主要な芸術団体・文化人たちと協力し、このオペラ制作事業を成し遂げました。この功績は非常に大きなものです。このオペラ「二人奥方」こそ、私たちの先人たちが残した「四国の貴重な音楽文化財」と言えるでしょう。

文:若井健司

民話オペラ「二人奥方」(第二場・第9景)
奥方に化けた狐のARIAと「葛の葉伝説」

恋しゅうばたずねきてみよ
信田の森の白狐

末路はあわれ死にたえる
身は畜生の悲しさよ

夢あこがれたおろかさよ
古い昔のお話に

葛の葉ぬれた
悲しい恋に

信田の森の白狐
古い昔のお話に

豊かな実り
穂に穂が咲いた

狐は田んぼの守り神
古い昔のお話に



人と狐のお話には、狐に人が化かされ、ひどい目に合うようなもの、例えば「九尾の狐」のようなお話が多いと聞きます。

しかし、そのような中にも人と狐が仲良く触れ合い、心を通わすようなお話もあります。この「二人奥方」もそのようなお話の一つです。

皆さんは、「葛の葉伝説」をご存知でしょうか。

約千年余りも昔、和泉の国、今の大阪市阿倍野の里に住んでいた安倍保名は、父の代に没落した家の再興を願い、信太森・葛葉稲荷に毎日お参りしていました。ある日のこと、稲荷の境内で、安倍保名は、屈強な数人の狩人に追い込まれた一匹の白狐をかわいそうに思い、助けようと思しますがそのために、傷を負って倒れてしまいます。そこに葛の葉という美しい女性が通りがかり、保名を介抱して家まで送り届けてくれました。葛の葉は、保名の傷の手当てをし、傷が癒えるまで親身に世話をしたそうです。やがて互いの心が通じ合い、二人は夫婦になり一人の子供を授かります。その名は童子丸、後の陰陽師、安倍晴明でした。

童子丸が五歳のとき、ふとしたことから、葛の葉(母親)の正体が保名に助けられた白狐であることが知れてしまいます。もはや人間界で暮らせなくなった葛の葉は、泣く泣く童子丸を置いて信太森へ帰らなくてはなりません。別れ際に、葛の葉は夫と子に、和歌を一首書き残したそうです。

「恋しくば 尋ねきてみよ 和泉なる 信太の森の うらみ葛の葉」

※最後の節の「うらみ…」とは、「悲しみにくれた…」との意があります。
「二人奥方」の狐が、処刑前に歌うARIAの歌詞には、この和歌の言葉が引用され、殿様への狐の想いを感じ取ることができます。

四国民話オペラ「二人奥方」
プロフィール



若井 健司 (香川大学)
芸術監督・演出

東京藝術大学大学院修了。
在学中に「甦る第九」(日本テレビ放送)ソリストとしてデビュー。オーストリアなど各地で宗教曲などのソリストとして活躍し、ブカレストフィルハーモニー管弦楽団などの海外のオーケストラと共演。国内数多くのオペラで主演を務めた。

瀬戸の都・高松からの世界への芸術(オペラ)発信・交流活動を2005年開始。ニューヨークのオーケストラの異文化交流事業、四国二期会オペラ公演、サンポートホール高松の記念事業、新作オペラ「扇の的」(ブルガリア・スタラザゴラ国立歌劇場での招聘公演)などのプロデュース・演出・演奏に取り組んできた。
高松市文化奨励賞、香川県文化芸術選奨受賞。
現在、瀬戸内海での源平合戦絵巻となる新作オペラ制作中。
四国二期会理事長。香川大学教育学部教授(副学部長)。



岡田 知也 (香川大学)
指揮・編曲

和歌山市生まれ
大阪教育大学特設音楽課程作曲専攻卒業。兵庫教育大学大学院芸術系修了。
昭和63年度笹川賞作曲コンクール吹奏楽曲部門第2位
作曲を保科洋、物部一郎、森川隆之の各氏に、指揮を保科洋、

David Howellの各氏に師事。特に吹奏楽や合唱の分野において多数の作品を発表している。さらに校歌、卒業式や音楽の授業のための作品についても積極的に作曲・編曲を行っている。
公立中学校教諭を経て、現在、香川大学教育学部教授。



青山 夕夏 (香川大学)
コンサートマスター

東京藝術大学大学院、シュトゥットガルト音楽大学M.A.コース修了。シュトゥットガルト・フィルで活動。ドイツ、フランス、中国、韓国などでフルート・リサイタル。
高松市文化奨励賞、香川県文化芸術選奨受賞。
アジア・フルート連盟日本常任

理事、日本管楽芸術学会理事。
現在、香川大学附属特別支援学校校長。香川大学教育学部教授。



東浦 亜希子 (香川大学)
音楽アドバイザー

東京藝術大学音楽学部卒業、同大学大学院修士課程および博士後期課程(鍵盤楽器研究領域)修了。博士号(音楽)取得。
学部卒業時に同声会賞受賞。

ザルツブルク夏期国際アカデミーにおいて邦人作品演奏への特別賞を受賞。第15回R.シューマン国際コンクール(ドイツ)ピアノ部門ファイナリスト・ディプロム受賞。
東京藝術大学音楽学部ピアノ科、東京都立総合芸術高等学校音楽科、各非常勤講師を経て、現在、香川大学教育学部准教授。



四国民話オペラ「二人奥方」
キャストプロフィール



國方 里佳
奥方A ソプラノ

日本大学芸術学部卒業、同大学院修了。
サンタキアラ国際音楽アカデミー主催マスタークラス受講(イタリア)ディプロマ取得。ハイドンアカデミー管弦楽団定期演奏会「スターバト・マーテル」(オーストリア)、プラハ交響楽団主催「第九」(プラハ)、「カルミナ・ブラーナ」等の演奏会でソプラノソリストを務める。オペラでは「ファルスタッフ」「魔笛」「扇の的」「椿姫」等の主要キャストにて出演。現在、志度音楽ホール少年少女合唱団指導者、香川大学教育学部附属高松小学校講師。四国二期会正会員。



佐治 名津子
奥方B ソプラノ

愛知県立芸術大学卒業、桑原賞受賞。同大学院修了。
サンタ・キアラ国際音楽アカデミー主催マスタークラス受講(イタリア)。
第73回読売新人演奏会出演。
四国二期会では、「魔笛」パパゲーナ、「扇の的」能子、「椿姫」ヴィオレッタなどで出演し、また瀬戸フィルコンサート、よんでんアンサンブルコンサート、その他多数のコンサートに出演。現在、四国二期会正会員。よんでんアンサンブルメンバー。



三木 伸哉
殿様 バリトン

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。大田区民オペラ「魔笛」のパパゲーナでオペラデビュー。
オペラでは「蝶々夫人」シャープレス、「ドン・ジョヴァンニ」レポレッコ、「ウイーン気質」ギンデルバッハ公爵、「こうもり」フランク、「天国と地獄」ジュピター等で出演。その他、リサイタルやミュージカルコンサート、松任谷由実氏とコンサートにてデュエットをした。現在、香川県立香川東部養護学校教諭。丸亀男声合唱団「コール・メル」指揮者。



綾 智成
御殿医 テノール

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業後、Vocal music、演劇活動に参加。東京にて「鶴の湯」コンサート、国立カンタービレ「桜の会」コンサートに出演。
2020年、同級生2人で開催した「同級生ラブソディー」は声楽と演劇の面白さを詰め込んだ企画が話題となった。
四国二期会高知支部の公演では、ルクセンブルク伯爵ルネ役、メリー・ウィドウ ニエグシュ役で出演し好評を博す。現在、四国二期会正会員。



櫻村 誠
老僧 バリトン

国立音楽大学声楽科及び鳴門教育大学大学院修士課程修了。
声楽を竹内肇、平野忠彦、頃安利秀、指揮を外山浩爾の各氏に師事。オペラでは「ボエーム」のコーネ、「トスカ」のアンジェロッチェ、「こうもり」のフランク、「カヴァレリア・ルスチカーナ」のアルフィオ、リゴレットの「スパラフチーレ」椿姫の「ドットーレ」などに出演。現在、のぞみ幼稚園副園長。



中越 恵美
役者(劇団マグダレーナ所属)

土佐・梶原出身。
S46年から演劇活動。
舞台「かまやの女」「沈黙の声を」「幕を下ろすな」「祭り囃子が聞こえたら」「電話をかける女」など。
映画「男はつらいよ」「県庁の星」他。「いただきガール」で、助演女優賞(賢島映画祭)。香川二期会「魔笛」「こうもり」に参加。2004年ブルーポラリス賞、高松市文化奨励賞受賞。

四国民話オペラ「二人奥方」
キャストプロフィール・アンサンブル・舞台、制作スタッフ

狐たち合唱 (高松市立屋島中学校合唱部)



浅野 季依 岩井 知穂 川渕 莉子
坂本 勇心 佐々木 洗輔 中川 遥稀
藤原 瑞月 前川佳羽菜 横田 蘭

私たちの学校は、源平合戦の古戦場として知られる屋島のふもとにあります。屋島中学校合唱部は、コンクールの全国大会で優良賞を受賞したり、四国大会常連校として活躍していた輝かしい歴史があります。先輩から受け継いだ「記録より記憶に残る合唱」をモットーに伝統を脈々と紡いできました。2018年には福島での声楽アンサンブルコンテスト全国大会、2019年には全日本合唱コンクール全国大会に出場しました。今は少人数ながらも楽しくひたむきに練習に励んでいます。そしてこれからも、聴いてくださる方の心に響く歌声が届けられる合唱を紡いでいきます。

助 演 (香川大学生)

腰 元：岩崎 菜奈
 中川 乃絵
黒 子：安田 葵
 辻 絢音

アンサンブル (香川大学生・OB・教員)

クラリネット：北野あゆな 打楽器：諏訪 稜央
 前田 光望 氏原 小雪
フルート：青山 夕夏 岩井 晴輝
 中川 果歩 ピアノ：坂本 実優
 三好 結菜 小倉 莉子
アルト・サクソフォーン：山下 裕理

舞台スタッフ

舞台監督：田和 伸二
助 手：三嶋依里子
 三嶋 孝弥
 田中 伸裕
照明プランナー：西山 和宏
照 明：ミュウライティング・オフィス
大 道 具：ライフ総合舞台
小 道 具：タワ・スタッフコラボレーション
音 響：津村 哲治
舞 踊 振 付：森 ゆかり
合 唱 指 導：河田 真紀
 新田 香織
演 出 助 手：大平 伊織(四国二期会)
舞台スタッフ助手：三木 文華(香川大学合唱団)
 渡辺 悠斗(香川大学合唱団)
衣 装：原和裁専門学院他
メイク・かつら：認定NPO法人
 農村歌舞伎祇園座保存会他
讃岐提灯の展示：香川大学生プロジェクト
※2回目 「TERASU」

製作スタッフ (香川大学生・四国二期会他)

オペラ制作チーフ：東浦亜希子
(音楽アドバイザー)
オペラ制作サブチーフ：橋爪 希佳
オペラ制作：高知優里奈
仕事歌制作サブチーフ：金谷 侑紀
仕事歌制作：末澤 美咲
 辻本由利子
 西谷智英美
制作アドバイザー：米田 優
 久保 正昭

着付けスタッフ：多田羅統恵
(原和裁専門学院)：多田羅昌子

メイク・かつら：鎌田 義美
スタッフ：鎌田 紋妃
(認定NPO法人 農村歌舞伎祇園座保存会他) 谷口 早織
 十川 陽香
 高木 美和

みんなの **桑山会** 会主 阿部 桑佑(勝)

公民館教室 観音寺社中 善通寺社中 宇多津社中 坂出社中 国分寺社中

〒762-0012 香川県坂出市林田町1625-1 TEL・FAX 0877(47)1169



ぼりゆまめ



株式会社 **たまも**

〒761-0450 香川県高松市三谷町2118番地
TEL 087-889-2131・FAX 087-889-2147
<http://tamamo-f.co.jp/>



仕出し **さこ**

電話 866-3863 (自宅 865-0122)



石田 和代
〒760-0045 高松市古馬場町8-25
TEL 087-822-8383

讃岐民謡保存会

会主 山下 利雄
高松市仏生山町甲 2168-9
TEL 087-888-1117



稽古日

みなさん一緒に唄いませんか

【三谷本部】 毎週水曜日 夜 7:00~9:00 三谷コミュニティセンター
【香川町支部】 毎週土曜日 夜 6:00~8:00 大野コミュニティセンター
【仁尾支部】 第1・第3火曜日 昼 1:00~3:00 仁尾文化センター

お遍路さんのLINEスタンプ「四国遍路」好評発売中

LINE Sticker
Shikoku Pilgrimage "Henro"
He is Henro. He tells your conditions and feelings to your special people on behalf of you.

Australia, Brazil, Canada, France, Germany, Indonesia, Italy, South Korea, Spain, Taiwan, Thailand, United Kingdom, United States

最適なメディアプランをご提案

四国リレーションズ

Shikoku Relations

shikoku-re.com/



香川から新しい糖 世界に羽ばたく 希少糖



希少糖とは?

その名のとおり希少な糖。自然界にごくわずかしか存在しない糖ですが、種類は多く約50種類も存在することがわかっています。

無限の可能性!

香川大学が、世界で初めてすべての希少糖の生産方法を確立。「これまでの糖の常識をくつがえす」さまざまな作用が明らかになりました。食品をはじめとして、医薬、工業、化学、植物分野に至るまで、現在も多様な研究が進められています。

希少糖「D-ブシコース(アルロース)」のはたらき

- ① カロリーゼロ
- ② 食後血糖の上昇をゆるやかに
- ③ 内臓脂肪の蓄積を抑える
- ④ 脂肪燃焼の促進
- ⑤ 虫歯になりにくい
- ⑥ 抗酸化性が高まる

※ブシコースはアルロースと呼ばれることもあります。

11月10日は
希少糖の日

一般社団法人 希少糖普及協会
香川県高松市香町1-2-19 安西ビル4階
TEL 0871814-3333 FAX 0871802-1755



希少糖プロジェクト
2022年4月完成!

希少糖D-アルロースの高純度結晶品「アストリア」スイーツの商品化を目指し、香川大学生と菓子工房ルーヴで始まった新プロジェクト。希少糖のもつ特徴がいかされるよう、焼菓子やコンフィチュールなどオリジナリティ豊かなスイーツを開発しました! 香川県産素材のおいしさと共に生まれるハーモニーをお楽しみください。



スイーツコンツェルト 1箱 ¥3,240 (税込)

菓子工房ルーヴ 香川県高松市鹿角町 290-1 ☎ 0120-869-787 <https://lowe.co.jp>

